

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172300168
法人名	株式会社 おあしす
事業所名	グループホーム おあしす養老
訪問調査日	平成 20 年 3 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 30 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成 20年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2172300168
法人名	(株)おあしす
事業所名	おあしす養老
所在地	岐阜県養老町京ヶ脇1609-10 (電話) 0584-34-1199

評価機関名	NPO法人 旅人となつた会の会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年4月30日

【情報提供票より】(20年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	2月	21日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤	3人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(55,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	4	名	要介護4		名	
要介護5	3	名	要支援2		名	
年齢	平均	85 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村医院・西美濃厚生病院・養老町歯科医師会
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

子供の国や自然公園に隣接し、天窓からの自然光・高い天井・広い空間・緑の芝生・美しい草木花など、豊かな自然環境を十分に取り入れ、ゆったりと穏やかな時が流れるホームである。居間からバリアフリーで自由に入出入り出来る広い芝生は、大きいテーブルや椅子があり、園芸や散歩をして体を動かしたり、夏にはラジオ体操会場となって、近隣の人、子供達との交流の場となっている。家族訪問の時間制限もなく、毎日訪問する家族もあり、気がついた事がいつでも話せる状態で、信頼関係がなされている。利用者が自然に暮らしていけるよう、一人一人個別の対応で最善の介護を理念とし、職員は移動や離職もなく、互いのコミュニケーションを大切に、明るく楽しく働いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題のモニターの設定、書類作成等を、ミーティングで検討され改善に向けての取り組みがある。書類の整備については、新たな書類、マニュアル等を作り、書き方もわかり易く工夫する努力がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を基に、全職員で話し合い、具体的な改善に取り組み、その内容を家族にも報告している。今回は自己評価も全職員が取り組み、支援を振り返り、サービスの質の向上に活かしていこうとする姿勢がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの行事をして、その時の参加者で運営推進会議を開いている。特に議題を設けず、自由な話し合いとなっている。地域代表、地域包括センター・行政などの参加はなく、利用者や家族の参加メンバーも偏りがちである。幅広い参加者と活発な議論で地域密着したホーム作りの工夫をしたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問が頻繁にあり、職員は家族と話面談する機会を多くもち、相談しやすい雰囲気作りが心がけ、積極的に意見や不満・苦情をたづねている。意見や苦情を受けた場合は直ぐにミーティングで対応をととのえ運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物などで挨拶を交わしたり、左義長などの神社の行事に参加している。ホームの庭を夏のラジオ体操の会場に開放し、近隣、住民の交流場になっている。地域住民からいただいた桜の花を利用者が花瓶に生けるなど、自然なかたちで地域との交流を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での暮らしや日々の暮らし、全てにおいて自然体で暮らすことを基本にし、「利用者の身体的精神的状態を把握し、それに対応した最善の介護サービスを提供します」という理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の個別の対応を大切に月1回のミーティングで話し合い、言葉使いに注意を払うなど、具体的な理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物などで挨拶を交わしたり、左義長などの神社の行事に参加したり、ホームの庭を夏のラジオ体操の会場にし、近隣の方、子供達の交流の場になっている。近所の方から桜の花を頂き、利用者が花瓶に生けるなど、自然なかたちで地域との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を基に全職員で話し合い、改善に向けての取り組みがされ、その内容を家族にも報告している。具体的な改善として、新たな書類を作り、書き方も工夫するなどの取り組みをしている。自己評価は一部職員のみで行っている。	○	全職員が自己評価を行い、自分自身の振り返りやケアの統一化が出来ると捉え、積極的に取り組むことにより、更なるサービスの質の向上する事を期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事を利用し、その時の参加者で運営推進会議を開いている。特に議題を設けず、自由な話し合いとなっている。地域代表や地域包括センター・行政の参加は見られず、利用者や家族の参加メンバーも偏りがちである。	○	利用者・家族・地域住民・地域包括センターや行政の職員など幅広い立場の人に声をかけ、外部の人々の目を通して、ホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合いながら、更なる地域の理解と支援を得ることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月写真やホームの様子を載せた報告書を町に提出し、行政に対してホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えているが、市町村担当者と行き来し、ともにサービスの質の向上に取り組むまでにはなっていない。	○	行事開催時に、市町村担当者を招待するなど、より積極的に行き来する機会を設け、市町村との連携を深め、地域密着型サービスが向上することを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者の暮らしぶりや健康状態を記した手紙を郵送している。毎日訪問している家族がいるなど、家族の訪問が頻繁にあり、職員はその都度利用者に合わせて報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問が多く、職員は話し合う機会を多く持つ事で言い出しやすい雰囲気を作り、家族の意見や不満・苦情を聞きだしている。意見を受けた場合はすぐにミーティングを行い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	直近一年程は職員の離職はなく、単独事業・1ユニットなので移動もない。利用者・管理者・職員全員が顔馴染みの関係でケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる職員が、交代で県や市の研修会や講習会に参加しているが、研修の年間計画はなく、職員が研修や勉強を受ける機会は少ない。		勤務に支障を来さないよう、研修機会を確保するため、研修計画を立て、職員が学集会や研修会に積極的に参加出来るような取り組みを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟し、ホームの情報交換を行っているが、勉強会や相互訪問等の活動や同業者との交流までにはなっていない。		地域の同業者との交流・連携の必要性を運営者は認識し、地域全体のサービス水準向上につながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始については、本人・家族と充分話し合いをし、納得してから入居し、入居後も雰囲気徐々に馴染めるよう、全職員で気配りしている。一週間ほど体験入居してから本契約出来るようにもしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者に自分の愚痴を聞いてもらったり、嫁・姑の機微を教えられたり、愛読書を貸していただいたりし、職員と利用者が一緒に過ごす時間を多く持つことで、お互いを理解し、支えあっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「一人ひとりに合った介護」を職員全員が認識し、常に利用者の希望・意向の把握に努めている。利用者の好みによって買い物先を変えたり、外出のスケジュールを決めず、その時々利用者の意向を汲みながら流動的に行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個々に受け持ち、日に一回モニタリング、ミーティングを行いながら、ご家族の要望を聞き出しながら、日々の生活の中で課題となる所を見つけ出し、本人に合った介護計画を作成されている。家族の方が他県に住まいの方は、電話を入れて要望等を聴いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月に一回、見直し面会時に家族に確認を取り、サインで承諾を得ている。他県の方には、計画書、生活状況を書いた用紙と一緒に送っている。また、状態が変化した時などは、ミーティングを行い、再検討をし職員一同が同じ目標を持ってケアしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が利用者と一緒に居室で一緒に泊まり、利用者の外泊、馴染みの店、図書館に連れて行き、個々の要望に応じた柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医である主治医から、週に一回往診を受け、また、入居前のかかり医の受診を希望されている方は、家族と連絡を取りながら、ホーム側か家族側かで、受診の代行を行っている。ホーム側が病院同行した際は、家族の方に受診結果を報告し、状態を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、家族、本人様と医療的な処置の対応、また、終末期に向けたケア方針などを話し合っ、入居してもらった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けに注意をしながら「～させる」にではなく、「～して頂く」をモットーに話し合いが行われ、全スタッフが周知して、プライバシーを損ねないように対応している。入居前に家族に十分な説明と職員間で話しあいのもと、夜間のみモニターを使用して異常事態に備えている。	○	モニターを使用しなくても良い利用者は、見守りが望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを優先し、朝方5時に朝食を摂られる方、歩行が可の人同士の散歩、買い物好きな人の支援など、一人ひとりのペースを考えながら援助し、日々の生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べた物を献立に取り入れたり、出来る食事を作ったりして、食事に対しての楽しみが持てる支援している。配膳、下膳が出来る人は行っている。また、食事の時間はテレビを消し、軽音楽を流してゆっくりとした食事が楽しめる様、工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の毎日朝から午後4時まで入浴ができる体制を整えている。午前中の声かけで拒否があった場合は午後か翌日には入浴にして、一人ひとりの入浴リズムに合わせた支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の草むしり、写経、習字など自分でしたい事や、出来る事をする事で、生活歴や力が活かされた支援をおこなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	バリアフリーにして、いつでも庭に出て行けるようにしてあり、気分転換ができる。また、天気の良い時は、歩く能力に合わせた少人数での外出支援をして、楽しめる様工夫をしている		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも出れる開放感と全職員は利用者の状態、行動を把握して、日中玄関の鍵をかけない支援をしている。外出した利用者があったが、地域住民と連携があり早く対応ができた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練が実施されているが、マニュアル、具体的な非難誘導策がなされていない。	○	災害を想定した備蓄の準備やマニュアル、誘導策を作成し、運営会議に提案し地域住民の連携、協力が得られるような働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の摂取量はチェック表で確認をしながら、定期的に栄養士から専門的な観点からの栄養バランスの指導助言、状態に応じた支援をしている。また食事量の低下は主治医と連携をとり、経腸栄養剤を摂りいれた支援もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全てバリアフリーになっている。天窓で外光を取り入れ、玄関先、庭先、リビングには利用者と一緒に手入れをした花を置き、季節感を取り入れ、ゆっくりとした時間が過ごせるよう工夫がなされている。清潔で生活感がある工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	習字、写真、写経など一人ひとりの思い出の作品、机、ソファ、畳など馴染みの物がある。個性的な居室作りである。		